

令和4年度第2回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和5年3月27日（月）午前9時30分～11時00分

場所：市民ふれあいプラザ「コムコム」多目的ホール

【出席委員】

伊藤晴樹、大穂耕一郎、木村加奈子、佐藤真弓、中嶋俊彦、長崎久美子、長門良幸、増田光、三浦栄一（五十音順、敬称略）

【欠席委員】

近藤大介、斉藤貢悦、張了了、中嶋友規、成田耕介、廣林孝文（五十音順、敬称略）

【説明員】

小松正彦総務部長、水木正範市民生活部長、三沢聡健康福祉部長、佐藤栄作産業部長、金澤誠産業部政策監、西根弘樹建設部長、加賀光也財政課長、小笠原隆教育委員会事務局総務課長、中嶋忍消防次長、畠山孝秀内陸線再生支援室長

【事務局】

長岐孝生総合政策課長、高田徹政策係長、永坂洋男副主幹

【会議の概要】

1. 座長挨拶

2. 協議事項

○事務局（永坂副主幹）説明

本会議の配布資料の確認と会議の進め方について説明。

（1）第1回検証会議の意見提言等に対する追加・補足説明について

検証資料1「第1回北秋田市総合戦略検証会議（意見・提言確認事項一覧）」及び「KPI（指標）の見直しについて【追加分】」を基に各部長等より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

〈質疑応答〉

大穂委員） 検証シート No. 51 の市営住宅について、阿仁地区の住宅を7戸修繕するとの説明があったが修繕の内容はどのようなものになるか。

建設部長） 修繕は屋根、外壁が主なものになる。

大穂委員） 移住者にとっては水回り（台所・トイレ・風呂など）が非常に重要となるため、今後は水回りのリフォームも考えながら行ってもらいたい。

建設部長） 水回りは、現時点では使用に影響のない状態である。修繕はその都度状態に応じて対応していきたい。

佐藤委員） 検証シート No. 61 のデマンド型乗合タクシーについて、制度の周知を図るため令和5年5月号広報へ掲載とあるが、1回だけでなく定期的に情報発信を行うことが必要ではないか。

総務部長） 現時点でどれくらいの頻度で発信するというを具体的に示すことはできないが、利用していただけるようになるべく広報等での周知を図っていきたい。

（２） 地方創生関係交付金事業の検証について

座長から評価基準について提案され、検証会議での採点結果が36点以上ならA、27点から35点ならB、23から26点ならC、22点以下ならDという内容とした。

各地方創生関係交付金事業について、担当部長より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

「地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業」※説明：産業部政策監

木村委員） ニューヨークタイムズ紙の2023年行くべき52カ所に盛岡市が選ばれたことで国内でも東北への関心が高まると思っている。今は、旅行の情報の大部分をSNSで得ていることから改めて市のSNSを見返したところ、地域の話題は定期的に更新しているが、より細かい投稿のアプローチが少ないと感じた。Instagramでは、他者が載せているものはあるが、市が載せているものが少ないため積極的に推しているものなどを投稿していくことが必要だと思う。前回の会議でも話したが、北秋田市で当たり前のものでも他では魅力的に映るものがあるので投稿の仕方のアプローチを工夫したらよいと感じた。

三浦座長） この交付金事業からすると、SNSでの情報発信を秋田犬ツーリズムが行うことになるのか。

産業部政策監） 秋田犬ツーリズムの活動経費を市から負担金という形で拠出している。その上で、秋田犬ツーリズムは連携自治体エリアの観光事業を行っている。ご提言のあったSNSでの情報発信は、秋田犬ツーリズムのHP等により行っているが市のHPとの連携も図りながら取り組んでいきたい。

また、盛岡市のHPなども確認して見やすく、インバウンドにも興味を持ってもらえるようなものを検討していきたい。

大穂委員) 観光面はコロナの影響が大きいので令和2年度以降の数字が落ちているのは仕方なく、今後回復していくものと思われる。

■採点結果は35点(妥当性評価12点、有効性評価13点、効率性評価10点)でB評価とする。

「北秋田打当温泉マタギの湯どぶろく工房整備事業」※説明：産業部政策監

長門委員) KPI「本施設濁酒販売量(ℓ)」が1,200ℓの目標値に対して実績が294ℓと極端に低い事由はなにか。

産業部政策監) コロナの影響により施設の宿泊者数が減少したことが要因である。

長門委員) どぶろくの生産量を増やして認知度を高めて販売につなげる必要があると思う。生産拡大を検討してもらいたい。

産業部政策監) 地域経済、地元雇用の面にも繋がるものだと思うので頑張っていきたい。

益田委員) KPI「施設利用者数(日帰り入浴客数、マタギ資料館利用者数、宿泊者数)」について、それぞれの入込データは把握しているのか。通過型観光から滞在型観光への転換を図るのであれば、日帰り客数だけでなく宿泊者数のデータから分析する必要がある。

産業部政策監) それぞれの入込データは把握している。どぶろくの消費に影響が大きいのは宿泊客と思われるのでそのデータ分析については検討したい。

益田委員) それぞれの数値で分析した方が正しく分析できると思うのでお願いしたい。

産業部政策監) この事業のKPIはH29年度からの5年間となっており、今回が最後の検証となる。

木村委員) 滞在型観光を推進していく上で、市内において飲食店を出店したいという要望等はあるものか。

産業部政策監) 市内全体では、飲食店を出店したいという話はある。市ではそのような方への補助(家賃補助等)も行っており、実際に活用している事業所もある。

伊藤委員) 情報発信の仕方が国内向けか海外向けかで変わってくる。国内での日本酒消費量は減少しているが、どのような人へどのように情報発信するのが重要になってく

る。どぶろくは北秋田市が誇れるものなのでブランディングを行うことでK P I の実績が大きく変わらと思う。

産業部政策監) どぶろくのすばらしさを国内外へ発信するために検討していきたい。

益田委員) 打当温泉のスタッフは非常に頑張っていて、どぶろくもスタッフが作っている。市がどぶろくを重要なものに位置付けているのであれば、どぶろく製造と宿泊に従事するスタッフを分けて雇用するなど、スタッフの負担を減らすことを考えないと長続きしないと感じている。そのため、効率性の3評価はすべて2で良いと思っている。

大穂委員) 慢性的な人手不足はどこでもあると思うが、人員がいないとできない事業なので検討は必要と考える。

長門委員) どぶろくを作る量を増やせばコスト削減には繋がるが、そのためには人員が必要となる。働いている人は高齢化しているので新しい人を入れたいが難しい状況である。そのことを市にお願いするのは交付金事業の趣旨とは違うと思うが、市が協力することで効率性の評価は改善できると思う。

■採点結果は 35 点（妥当性評価 13 点、有効性評価 13 点、効率性評価 9 点）で B 評価とする。

「秋田内陸線阿仁合駅観光拠点施設整備事業」※説明：内陸線再生支援室長

大穂委員) 阿仁合駅の改修は本当に効果が大きいのと思っている。改修前は狭くて古かったため、駅のトイレを使用せずに阿仁窓口センターを利用したりしていた。改修されたからは団体でも入れるようになったのでありがたかった。

訪日外国人団体数も H29 年度から R 元年度までは順調に伸びていて、R 元年度は内陸線の年間利用者数が前年度を上回るという画期的なことが起きた。その後コロナの影響を受けてしまったが、コロナ前の状況に戻るよう協力していきたい。

中嶋委員) 観光拠点としての阿仁合駅舎の改修の意義は大きいと感じている。コロナ前は外国人客が新幹線で角館まで来て、そこから内陸線を利用して阿仁合まで来ていた。阿仁合までは来るがそこから鷹巣までどのようにして来てもらうようになるかが課題である。いつまでも宿泊施設がないとかを言っても仕方がないので観光客を呼び込むための具体的な方策を官民一体で考えなければならない。そのきっかけが阿仁合駅舎の改修であったと思う。

内陸線再生支援室長) 追加説明として、コロナ前の内陸線乗車人数は 260,837 人であっ

た。R元年度はインバウンドも過去最高の33,000人となった。前年を上回るというのは10年ぶりであった。

コロナ前のインバウンドは95%が台湾であった。R4年度になって122団体(3,394人)が内陸線を利用しており、台湾一辺倒だったものがタイ、シンガポール、中国の割合も高くなってきている。会社のHPでは、多言語化も図っており今後もインバウンド対応を充実していきたい。

大穂委員) 鷹巣の駅前に滞留できる施設、アルコールを購入できる店がない。小さくてもよいので観光客が滞留できる施設の整備を検討してもらいたい。

中嶋委員) 有効性評価の「政策目標の実現に貢献しているか」について、大穂委員の指摘のとおり、広域で考えるとした場合は違ってくると思うが、この事業は阿仁合駅舎の整備事業なので5で良いと思う。

■採点結果は44点(妥当性評価14点、有効性評価15点、効率性評価15点)でA評価とする。

「森吉山ウェルカムステーション整備事業」※説明：内陸線再生支援室長

益田委員) KPIの阿仁合駅舎2階の訪問者数はどのようにカウントしているのか。

内陸線再生支援室長) 2階の入口のドアを開けると自動的にカウントする装置を付けている。

大穂委員) ウェルカムステーションはWi-Fiがあって仕事ができる環境なのでコワーキングスペースになるということをもっと周知することと、2階への上り口が分かりづらいので分かりやすい案内を行う必要である。

内陸線再生支援室長) 会社でも「会議のすすめ」とうたって会議ができることをPRしているが、活用に向けてさらなる検討を行いたい。

伊藤委員) Wi-Fiがあるだけで外国人、学生、テレワーカーが来るようなホットスポットになるのでWi-Fiがあることを周知するべきである。

三浦座長) ウェルカムステーション整備事業の目的は、森吉山や周辺エリアへのアクセスポイントとしての役割と森吉山を含む地域の情報発信の基地にすることであったと思うが、ウェルカムステーションを起点として訪問客がどのように動いていたかを探る方法はあるか。

内陸線再生支援室長） 阿仁合駅からだと周遊乗合タクシーがあるので、ひとつの指標になると思う。

三浦座長） ウェルカムステーションには来るが、そこからの動きが分からないので、来訪者の駅からの動きも分析していく必要があると思う。

また、森吉山や周辺エリアへのアクセスポイントとしての役割と森吉山を含む地域の情報発信の基地というものの以外でも活用できるようにすることが必要と考える。

■採点結果は43点（妥当性評価14点、有効性評価14点、効率性評価15点）でA評価とする。

三浦座長） 全体を通して意見等はないか。

益田委員） 交付金事業の検証に当たって効率性の評価を我々が行えるものなのか疑問である。検証シートは事業内容と数字だけになっているので、せめて携わっている現場からの声を検証シートに反映させてもらえると評価しやすい。

事務局） 現場の声等をコメント欄に入れ込むことはできるので次回より検討したい。

長崎委員） 阿仁合から鷹巣方面へ足を運んでもらえるようにどんどん情報発信を行ってほしい。

また、鷹巣駅からコムコムまで歩いてきたがシャッター街でさみしいので地域が楽しくなるような催しを企画して、みんなが集まれるような場所づくりをしてほしい。

三浦座長） それでは、頂いた意見を私と事務局でまとめて、皆さんに報告する。

閉会